

東海支部

支部長 野嶋 孝

東海支部では、去る七月五日(金)、恒例の第二十六回「東北大学電気系同窓会東海支部総会」を、名古屋駅前ホテルサンルート名古屋において開催いたしました。

本年度は仙台からご来賓として通信工学専攻の中村傳良先生をお迎えし、支部会員六十一名の出席を得て盛大な会合となりました。

総会は、幹事会社であるトヨタ自動車(株)の美辺敏氏(電子四十一年)の開会の辞で始まり、支部長の中部電力(株)野嶋孝(電気三十九年)の挨拶と続き、名古屋商科大学の本多波雄先生(通信二十五年)の乾杯の音頭で宴に移りました。

ご来賓の中村先生からは挨拶の後、電気系の近況についてプロジェクトを用いたビジュアルなご講演がありました。引続き幹事会社により東北大学、特に工学部の最近の情景や仙台市内の風景の紹介があり、長らく仙台の地を訪れていない支部会員にとっては懐かしい思いを抱くと共に、母校や仙台の変貌ぶりに驚かされる一時でした。

この後各大学、企業の代表者に近況など交えスピーチを頂きました。和やかな中にもそれぞれの大学・企業で抱えられている課題や問題意識のご披露が見られ、有意義な情報交換の場となったようです。歓談の後、次回の幹事会社、三菱重工(株)を代表して清水将一氏(情報修五十六年)から次回の総会への決意を表明して頂き、次年度の盛会を誓い合いました。

終わりに、恒例となっております古庄電機産業(株)の石井隆一氏(電気四十五年)指揮により「青葉萌ゆる」を合唱し、常任幹事である(株)デンソーの前野剛氏(通信四十七年)の閉会の辞で会を締めくくりました。最後に、母校及び同窓会本部の発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、一層のご指導をお願いする次第です。

関西支部

支部長 菅野 昌志

関西支部では、本年度は独自の活動は行いませんでした。本年六月ぶりに電気系の同窓会名簿が発刊されましたが、私も郵送されて来た分厚い冊子を手にながら、早く支部のイベントを計画しなければと氣を揉んでいる次第です。

今年の関西地区のダントツの話題は、やはり田中耕一さんのノーベル賞受賞でしょう。

同じ関西の地で、企業の技術者としてしかも東北大学の同窓生として奉職する身としてこの上ない誇りです。また、報道を通じて拝見するお人柄、活動の経歴から「研究中心主義実学の東北大学」の伝統をあらためて実感したのは私だけではないでしょう。青葉工業会近畿支部長として祝電をお届けいたしました。

ご存知のように田中さんがご勤務の島津製作所は、京都の起業精神に溢れた企業風土を代表するハイテク会社です。そもそも今回の受賞の対象となった研究を生み出す素地があったのではないのでしょうか。

われわれ企業は、本業と新規事業の両輪でさらなる成長を追求します。ある記事で、「むしろ新しい分野(バイオ)に乗り出したらお家芸の(計測・分析)から快挙が生まれた」との評論がありました。企業のR&Dのマネジメントに重要なヒントを与えていると思えます。

関西地区は、京都のみならず、たとえば東大阪の人工衛星計画「まいど1号」のように発想豊かなベンチャー群がたくさんあります。そこから日本発の新技術がどんどん輩出することを期待したいものです。

大見忠弘先生御退官



三十年にわたり電気通信研究所・工学部・工学研究科において教育と研究にご尽力されました大見忠弘先生が平成十四年三月三十一日をもって

本学を退官されました。先生は、昭和十四年一月に東京都でお生まれになり、昭和四十一年三月東京工業大学大学院理工学研究科電子工学専攻博士課程を修了後、同工学部電子工学科助手に任用されました。その後、昭和四十七年四月に東北大学電気通信研究所助手に転任され、昭和五十一年十二月同助教、昭和六十年一月に工学部教授に昇任され、電子工学科の固体電子工学講座を担当されました。平成九年四月の大学院重点化に伴い、大学院工学研究科電子工学専攻物性工学講座固体電子工学分野を担当され、平成十年四月には新設された未来科学技術共同研究センター未来情報社会創製分野を担当されました。

先生は、三十余年にわたり、半導体集積回路・デバイス・製造技術に関する体系的な研究を推進しておられます。将来の半導体技術のあるべき姿を常に洞察し続け、その具現化に必要な研究を一貫して行って来られました。特に「ウルトラクリーンテクノロジ」の概念を世界で初めて提唱され、その実現に必要な、スーパークリーンルームに関する空調、除塵、防振、帯電防止技術、磁場変動抑止技術に加え、超高純度ガス供給技術、超純水供給技術、超高純度薬品供給技術、ウェーハ洗浄技術、高密度プラスチック装置技術等々の広範な分野にわたる技術の全てを自ら作り上げ、それまで、勘と経験に頼ってきた半導体集積回路の製造技術を革新し、すべての

現象を科学的に理解し完全に制御できることを実証いたしました。

その思想に基づき、昭和六十一年三月に電気通信研究所内にスーパークリーンラボを、さらに平成元年には工学部電子工学科内にミニスーパークリーンルームを建設されました。また、昭和六十二年から六十三年にかけて米国インテル社やエイエムディ社から依頼されて新工場の全面的な設計指導を実施された事例などを含めて、数多くの半導体企業との興隆にご貢献されています。さらに、材料、装置、プロセス、デバイス、回路、システムなどあらゆる分野に関わる半導体製造技術について新たな学問・技術体系を広範囲に創出されております。

大見先生は平成元年七月に井上春成賞、平成二年四月に市村産業賞(功績賞)、同じく平成二年にIEEE Transactions on Semiconductor Manufacturing 1989 Best Paper Award、平成三年三月と平成十一年三月に大河内記念技術賞、平成八年六月に(社)発明協会発明賞、平成九年五月に(社)電子情報通信学会業績賞、平成十二年四月に科学技術庁長官賞、平成十三年五月にSCP 8th International Symposium WERNER KERN AWARD、平成十四年五月に第四回LSIIPデザイン・アワードP 優秀賞などの賞を受賞されておられます。

平成十三年度には、産官学連携のもと、未来科学技術共同研究センター内に未来情報産業研究館を建設され、更なる研究開発に着手されております。

学生教育にも多大な貢献をされており、先生のご指導により現在までに百八名の博士が誕生しております。

先生は、平成十四年三月に退官されましたが、未来情報産業研究館にて寄附研究部門の客員教授として、引き続き研究・教育にあたっておられます。今後ともご指導をお願い致しますとともに、先生の「健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます」。

(須川成利 記)